



特定非営利活動法人／NPO

**放送批評懇談会**

**第3回通常総会議事録**

第一号議案 議長の選任

第二号議案 NPO放送批評懇談会 2006年度事業報告

第三号議案 NPO放送批評懇談会 2006年度収支決算

第四号議案 NPO放送批評懇談会 2007年度事業計画

第五号議案 NPO放送批評懇談会 2007年度収支予算

**放送批評懇談会**

2007年6月16日



NPO 放送批評懇談会

第3回通常総会 2007

**特定非営利活動法人放送批評懇談会**

**<第3回通常総会>**

- 開催日 2007年6月16日
- 会場 東京厚生年金会館 錦Ⅱ
- 会勢
- <正会員>  
188名 (入会10名、退会5名)
- <維持会員>  
126社 (入会5社、退会1社)
- 出席者 27名
- 石井 彰 石井清司 入江たのし 岩田糸子  
岩本太郎 小田桐誠 音 好宏 隈部紀生  
上滝徹也 坂本 衛 志賀信夫 篠原俊行  
島野功緒 鈴木嘉一 滝野俊一 竹内和芳  
田代勝彦 只野 哲 田中典子 永田俊和  
中村登紀夫 信井文夫 橋本 隆 深井教雄  
藤久ミネ 堀木卓也 山田健太
- 委任状提出者 87名
- 出席予定者と委任状提出者で計114名



NPO 放送批評懇談会

第3回通常総会 2007

## 第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員のなかから「竹内和芳氏」を合議により選任。

第二号議案

NPO放送批評懇談会  
2006年度事業報告



## 2006年度総務事業報告

1. グランド・デザイン（全体構想）小委員会について  
将来の放送批評懇談会の在り方について、音副理事長をリーダーとする小委員会を編成し、検討に入りました。  
\*リーダー・音 好宏、メンバー・小田桐誠 石井 彰 市村 元  
入江たのし 岩本太郎 坂本 衛 深川 章、  
事務局・中島好登
2. ギャラクシー賞の課題について  
4部門の連携や整合性、贈賞式の演出などについて、藤久選奨事業委員長を中心に各委員会で意見交換を行ないました。贈賞式は大筋従来の路線を踏襲しましたが、ラジオ部門の演出を見直し改善しました。（総合演出・嶋田親一理事）  
クリスタルのトロフィー高騰化については、HOYAの協力を得て、予算内に収まりました。
3. ギャラクシー賞マイベストTV賞について  
\*プロジェクトリーダー・滝野俊一、メンバー・仮屋和則  
桧山珠美、アドバイザー・藤久ミネ、事務局・久野明  
（具体的にはプロジェクトリーダーより報告します。）
4. 第5回「日韓中テレビ制作者フォーラム IN 韓国・光州大会」について  
2006年10月26日～30日に開催された大会に協賛し、取材と研修のために2名を派遣しました。  
\*出張者・小田桐誠 事務局長・中島好登  
\*自費参加・隈部紀生
5. 認定NPO法人の取得について  
寄付が非課税になるなど有利になりますが、財務省の認可が必要でハードルが高く、現状では困難です。今後とも長期的な視野から研究を進めます。



## 2006年度出版編集事業報告

1. 下記のメンバーで運営しました。

委員長 小田桐 誠

副委員長 岩本太郎

委員 石橋さや夏 岩根彰子 小林潤一郎 小林 毅  
狩野慶二郎 砂川浩慶 田北康成 松本恭幸  
山田健太

2. 毎月6日に「GALAC」を発行しました。

①「GALAC」ならではの特集テーマに臨機応変に取り組  
みました。反響が大きかった特集は次の号でした。

2006年12月号 ちょっと待った！ニュース

2007年3月号 国際放送は誰のため？ 何のため？

2007年4月号 時代劇ニューウェーブ

2007年6月号 健康&靈感番組を科学する

②連載の見直し、改廃を進めるとともに、ギャラクシーのペ  
ージに報道活動部門を設けました。

③発行部数は約4000部と横這いでしたが、男性タレン  
ト・役者が表紙の号は好調でした。

④ネット書店「富士山マガジンサービス」との提携により、  
ネット上での販売拡大に努めました。

⑤全体的に編集費、原稿料の抑制に努めました。



## 2006年度選奨表彰事業報告

1. 本年度は下記の委員の構成で運営しました。

委員長 藤久ミネ

テレビ部門委員

(テレビ委員長・音 好宏、副委員長・丹羽美之)

石井 彰 井上幸一 音 好宏 河野尚行 古賀靖典  
佐藤由子 鈴木典之 中町綾子 丹羽美之 桧山珠美  
藤久ミネ 三浦辰治 柳川素子

ラジオ部門委員

(ラジオ委員長・橋本 隆、副委員長・斎藤弘美)

遠藤ふき子 鎌内啓子 茅原良平 斎藤弘美 桜井聖子  
田中千恵 仲宇佐ゆり 西山弘道 橋本 隆 藤田恒美  
堀 義貴 三國 游 三原 治 山本 索

CM部門委員

(CM委員長・兼高聖雄、副委員長・五井千鶴子)

石橋さや夏 岩本太郎 兼高聖雄 木村政司 五井千鶴子  
高橋俊明 谷岡理香 永田彰久 本庄雅之  
三日月まりこ

報道活動部門委員

(報道活動委員長・坂本 衛、副委員長・堀木卓也)

麻生千晶 碓井広義 上滝徹也 小林英美 坂本 衛  
田原茂行 露木 茂 堀木卓也 山田健太 山室英男

選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第44回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

<テレビ部門>

- ・2006年4月から2007年3月まで、毎月選考会を開き月間賞4本を選びました。選考結果を「GALAC」誌上に番組一覧表および合評形式で発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。
- ・2006年9月14日から28日まで、10月12、13日



に第44回上期自薦作品82本を視聴。11月1日、月間賞（23本）と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。

- ・2007年3月14日から28日まで、4月9、10、11、12日に第44回下期自薦作品99本を視聴。4月21日、月間賞（22本）と自薦作品の中から、下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞も選びました。

<ラジオ部門>

- ・2006年4月から2007年3月まで、毎月ラジオ委員会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2006年10月、第44回上期自薦作品を聴取し、10月25、27日に各部門の上期候補作品を選出。
- ・2007年4月、下期自薦作品を聴取し、4月16、17日に各部門の下期候補作品を選出。
- ・4月23日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。
- ・6月25日、10月28日に受賞作品を聴く会を開催しました。

<CM部門>

- ・3か月ごとにCMの視聴合評会を開催しました。
- ・2006年10月26日、上期自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。
- ・2007年4月24日、下期自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。上期下期合わせた中から13本の入賞作品を選出。

<報道活動部門>

- ・2006年10月14日、上期自薦作品を視聴・聴取し、4本の候補作品を選出。
- ・2007年4月14日、下期自薦作品を視聴・聴取し、4本の候補作品を選出。上期下期合わせた中から6本の入賞作品を選出。
- ・「GALAC」2007年4月上旬発売号から報道活動応援ページの連載を開始。委員が分担して執筆。





- ・応募をしやすいようにするため、下期の選考対象を「上下期を通じての放送」に拡大したほか応募期間を若干延長。

3. 2007年5月31日(木曜日)、ウェスティンホテル東京ギャラクシールームにて「第44回ギャラクシー賞贈賞式・記念の宴」を開催しました。

なお、実行プロジェクトメンバーは次のとおりです。(総合演出・嶋田親一／石橋さや夏、岩根彰子、入江たのし、岩本太郎、仮屋和則、古賀靖典、小林英美、高橋克佳、永田俊和、桧山珠美、三原 治／中島好登)。

出席者の内訳は、有料約300名、招待約300名、合計約600名でした。



## 2006年度企画開催事業報告

1. 本年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。  
委員長 隈部紀生  
副委員長 滝野俊一  
委員 入江たのし 大山輝夫 小針俊郎 佐藤 勉  
清水孝雄 隅井孝雄 千田利史 只野 哲  
原 由美子
2. 2007年2月20日(火曜日)、放送批評懇談会シンポジウム2007「加速するデジタル化と放送の未来」を、ホテルルポール麹町で開催しました。  
今回は2006年12月に地上テレビのデジタル化が全都道府県で始まり、正念場を迎えたことや、放送法改正の動きについて、まず総務省情報通信政策局長が講演したあと、NTV社長がデジタル化と民放経営について講演し、会場からの質問にも答えました。続いてケーススタディとして、NTVとKDDIの担当者がケータイ向けサービスについて最新の動向と展望を説明し、最後のパネルディスカッション「IPTVの進展と放送」では、放送、通信、ブロードバンドテレビという三様の立場から、ブロードバンドを使ったサービスの現状と将来について話し合われました。  
2006年に続いて、午後だけのセッションにして参加料は同額を維持し、有料参加者は254人と2006年よりわずかに増えて、補助席を作るという盛況になりました。会場では今後のシンポジウムの企画のためにアンケート調査をし、123人(47%)から回答を得ました。
3. 2005年から開始した放懇セミナーシリーズ「デジタル時代の視聴者像」の第2弾として、「デジタル新サービスの利用実態」を2006年11月29日にアルカディア市谷・私学会館で開催しました。参加者は75名でした。



## 2006年度マイベストTV賞

### プロジェクト事業報告

1. 以下のメンバーで運営しました。  
プロジェクトリーダー 滝野俊一  
メンバー 仮屋和則 桧山珠美  
アドバイザー 藤久ミネ  
事務局 久野 明
2. 2006年3月より募集をしたWeb会員の登録者は398名（2007年6月10日現在）に達しました。
3. 第1回「マイベストTV賞グランプリ」が決定しました。Web会員369名に放送批評懇談会の正会員188名が加わり、グランプリの投票にあたりました。グランプリ作品は、投票によって決められたノミネート作（毎月上位3作品、同数の場合は繰り上げ）38本の中から、最高3本までを投票するという方法で決められ、53票を獲得した「ハゲタカ」（NHK）が栄誉に輝きました。  
また、投票されたWeb会員の中から1組2名を、プレゼンターとしてギャラクシー賞贈賞式に招待しました。

第三号議案

NPO放送批評懇談会

2006年度収支決算

## 収 支 計 算 書

平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日まで(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
<b>I. 収入の部</b>			
1. 会費等収入			
会費収入	2,500,000	2,399,500	100,500
維持会費収入	40,500,000	40,979,000	△ 479,000
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	26,000,000	24,853,294	1,146,706
企画開催事業収入	3,500,000	4,319,000	△ 819,000
40周年記念収入		47,100	△ 47,100
3. その他の収入			
出版編集事業収入	3,600,000	3,847,442	△ 247,442
広告料収入	7,500,000	7,684,000	△ 184,000
4. 雑収入			
受取利息	0	7,193	△ 7,193
雑収入	0	1	△ 1
<b>当期収入合計</b>	<b>83,600,000</b>	<b>84,136,530</b>	<b>△ 536,530</b>
<b>II. 支出の部</b>			
1. 事業費			
選奨費	7,000,000	6,856,827	143,173
式典費	9,600,000	9,671,606	△ 71,606
企画開催費	2,000,000	2,275,884	△ 275,884
原稿料	6,800,000	7,026,581	△ 226,581
編集費	4,700,000	4,024,044	675,956
雑誌印刷費	17,000,000	16,754,431	245,569
発送費	1,500,000	1,398,867	101,133
法人化対策費	150,000	0	150,000
2. 管理費			
給料手当	17,100,000	17,092,494	7,506
人件費	3,000,000	2,544,690	455,310
法定福利費	2,220,000	2,275,334	△ 55,334
福利厚生費	300,000	174,963	125,037
旅費交通費	650,000	532,230	117,770
通信費	1,250,000	1,097,013	152,987
資料費	1,220,000	1,114,476	105,524
会議費	250,000	220,104	29,896
水道光熱費	270,000	255,770	14,230
事務用品費	180,000	130,398	49,602
消耗品費	600,000	577,906	22,094
備品費	300,000	365,894	△ 65,894
諸印刷費	720,000	373,327	346,673
広報費	500,000	680,350	△ 180,350
支払手数料	150,000	105,426	44,574
賃借料	3,800,000	3,926,836	△ 126,836
保険料	730,000	771,230	△ 41,230
交際費	250,000	136,202	113,798
雑費	800,000	719,186	80,814
諸会費	90,000	115,644	△ 25,644
租税公課	370,000	135,600	234,400
退職給付引当金繰入	0	786,000	△ 786,000
予備費	100,000	0	100,000
<b>当期支出合計</b>	<b>83,600,000</b>	<b>82,139,313</b>	<b>1,460,687</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>0</b>	<b>1,997,217</b>	<b>△ 1,997,217</b>

## 貸借対照表

平成 19 年 3 月 31 日現在(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	35,431,442		
未収入金	3,927,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		39,645,567	
2. 固定資産			
賃借権利金等	30,898		
差入保証金	4,099,500		
固定資産合計		4,130,398	
資産合計			43,775,965
II. 負債の部			
未払金	5,485,043		
前受金	1,470,000		
預り金	493,973		
退職給付引当金	15,289,000		
負債合計			22,738,016
III. 正味財産の部			
正味財産			21,037,949
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			1,997,217
負債及び正味財産合計			43,775,965

## 正味財産増減計算書

平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
現金預金増加額	1,891,260		
未収入金増加額	198,000		
差入保証金増加額	49,500		
2. 負債減少額			
未払金減少額	802,727		
預り金減少額	40,317		
増加額合計		2,981,804	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
賃借権利金等減少額	123,587		
2. 負債増加額			
前受金増加額	75,000		
退職給付引当金増加額	786,000		
減少額合計		984,587	
当期正味財産増加額			1,997,217
前期繰越正味財産額			19,040,732
期末正味財産額			21,037,949

第四号議案

NPO放送批評懇談会

2007年度事業計画



## 2007年度総務事業計画

1. グランド・デザイン（全体構想）を推進します。  
小委員会で検討された構想を、2008年3月までに理事会へ提案し、承認を得たあと、具体的な活動に入ります。  
\*リーダー・音 好宏、メンバー・小田桐誠 石井 彰 市村 元  
入江たのし 岩本太郎 坂本 衛 深川 章、  
事務局・中島好登
2. 放懇創立45周年企画について  
今年、節目の年に当たり、2008年5月開催のギャラクシー賞贈賞式の演出をひと工夫する、特別賞を設けるなどの企画を検討します。
3. 「ギャラクシー賞マイベストTV賞」について  
第2回目を迎えるにあたり、前年度の反省を踏まえて推進します。  
\*プロジェクトリーダー・滝野俊一、メンバー・仮屋和則  
桧山珠美 アドバイザー・藤久ミネ、事務局・久野明  
(具体的にはプロジェクトリーダーより報告します。)
4. 第7回「日韓中テレビ制作者フォーラム IN 中国・天津大会」について  
2007年9月に開催される大会に協賛し、取材と研修のため2名を派遣します。
5. 収支予算案について  
収入の部の維持会費、選奨事業収入、企画事業収入、広告収入のいずれも現状を上回るのは困難と予想されます。  
支出の部を極力引締めた予算組みとします。





## 2007年度出版編集事業計画

1. 下記のメンバーで運営します。

委員長 小田桐 誠

副委員長 岩本太郎

委員 石橋さや夏 岩根彰子 狩野慶二郎

小林潤一郎 小林 毅 砂川浩慶 田北康成

南條廣介 松本恭幸 山田健太

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。

①特集のテーマ、切り口、中身などで誌面の活性化を図っていきます。

②原稿内容、校正作業などに責任を持ち、クオリティアップに努めます。

③原稿料、取材費、制作費、印刷費など適正なコストを実現していますが、引き続きこれに努力します。

④放送批評懇談会が関わるシンポジウムや勉強会、イベントなどと連携した誌面展開を考えていきます。

⑤編集長就任時の編集方針、たとえば視聴者の目線を大切にする、新たな書き手を発掘する、制作現場やローカルの話題の充実—などを毎月の誌面に反映させていきます。

⑥発行部数は引き続き約4000部を見込んでいます。

⑦事務局と連携して、新たな出稿先や販売網の拡充に努めます。



## 2007年度選奨表彰事業計画

1. 2007年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 藤久ミネ

テレビ部門委員

(テレビ委員長・音 好宏、副委員長・石井 彰)

石井 彰 井上幸一 音 好宏 河野尚行 古賀靖典  
佐藤由子 鈴木典之 中町綾子 桧山珠美 藤久ミネ  
柳川素子 ほか若干名交渉中

ラジオ部門委員

(ラジオ委員長・橋本 隆、副委員長・斎藤弘美)

遠藤ふき子 鎌内啓子 茅原良平 斎藤弘美 桜井聖子  
田中千恵 仲宇佐ゆり 西山弘道 橋本 隆 藤田恒美  
堀 義貴 三國 游 三原 治 山本 索

CM部門委員

(CM委員長・兼高聖雄、副委員長・五井千鶴子)

石橋さや夏 岩本太郎 兼高聖雄 木村政司 五井千鶴子  
高橋俊明 谷岡理香 永田彰久 本庄雅之 三日月まりこ  
ほか若干名交渉中

報道活動部門委員

(報道活動委員長・坂本 衛、副委員長・堀木卓也)

麻生千晶 碓井広義 上滝徹也 小林英美 坂本 衛  
田原茂行 露木 茂 堀木卓也 山田健太 山室英男

選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第45回ギャラクシー賞(2007年度)の審査、ならびに贈賞式を行います。

3. 2007年度の運営方針は以下のとおりです。

1) テレビ部門の運営

近年の応募件数の増加に鑑み、委員会の強化を図るとともに、すべてのジャンルの番組への目配りを心がけます。月評会の活性化を図ることで、制作者の活力と今後の番組作りへ



の提言となるような日常的な批評活動を目指します。

## 2) ラジオ部門の運営

基本方針に大きな変更はありません。毎月様々なテーマを設定し、中波、FM、あるいはキー局、ローカル局を問わずに番組を選択し、その合評会を開催し、ラジオ番組のあるべき姿を議論していきたいと思います。委員の情報力をさらに高め、キー局首都圏の局のみならず、地方局、小さな局の知られざる優秀番組を取り上げ紹介することによって、制作者を励まし役に立つ批評を目指します。

## 3) CM部門の運営

CM部門では、基本的な評価軸である「サムシングニュー」からぶれることなく、かつデジタル時代のテレビCMの存在意義をも考えるべく本年度の活動を展開したい。とくに今後は、CMにとってテレビとは何か、テレビ放送によるCMの意義は何か、を指し示すような選奨活動を心がけていきたい。とくに月評の場での討議や選奨ではテレビの媒体価値や、今後のテレビのあり方を含めた討議を意識して行いたい。

また43回より導入したシリーズ応募が44回では定着してきたことをふまえ、現行では3本までとしている規定を柔軟に考え、今回グリーンプロジェクトのような8本の連続CMを認めたように、よりCM制作の実情に合った形で運用していきたい。また現行では広告会社・制作会社・放送社・広告主からの応募を想定し、評価しているが、さらにはアカウントプランニングの側面からの評価や、また逆にトータルプロデュースの側面からの評価選奨も考えてみたい。

現在、委員会メンバーが前期に比べ、やや不足状況であり、より多面的に広告コミュニケーションを考え、またテレビの媒体価値を評価できるような人材を確保しようと計画している。現行の委員および前・委員との討議で、ややアカデミックな立場の方や、戦略的な広告コミュニケーションを評価できるような方を考えており、近々増員したい。



#### 4) 報道活動部門の運営

(1) 一定期間の放送を通じて、キャンペーン報道、複数局が参画し協同する報道、系列による総力報道など、特定の番組枠を越えて継続的に取り組んだ報道活動、(2) 単体の番組としては完結していなくても、社会性・時代性のある画期的なスクープ報道、長期にわたる優れた調査報道、フリーランスによる特定のテーマ報道、番組コーナーを活用した報道活動など、番組単位でくくることのできないテレビ・ラジオのあらゆる報道活動に広く目配りし、これを応援する選奨活動をおこないます。とくに、地域の放送ジャーナリズム活動、既存メディアがあまり取り上げない問題に光を当てる報道、さまざまな制約と格闘しながら信じる主張を貫く報道、既存メディアの枠組みを打破し自らの新しい可能性を追求する報道などを、丁寧に見ていきます。キー局はもちろんですが、地上放送局、地方局、独立U局、衛星局、CATV局、ラジオ局、番組制作プロダクション、フリージャーナリスト、その他団体などからの応募がより活発になるよう、賞についての広報を引き続き推進します。



## 2007年度企画開催事業計画

1. 2007年度は、恒例のシンポジウムをはじめテーマを絞ったセミナーや研究会、放送をめぐるコンサルティング、アンケート調査等を企画・立案・実施します。
2. 本年度の企画事業委員会は、下記のメンバーで構成します。  
委員長 隈部紀生  
副委員長 滝野俊一  
委員 入江たのし 大山輝夫 小針俊郎 佐藤 勉  
清水孝雄 隅井孝雄 千田利史 只野 哲  
原 由美子
3. 2008年にはデジタルテレビのワンセグの独自放送やデジタルラジオの本放送が始まることが予想されます。一方、放送法制の改変が進められる中で、放送番組の倫理や放送の公共性の問題が引き続き大きな関心を引きそうです。また、デジタル化の一層の進展の中で地域民放局の経営の難しさが大きくなってきます。さらにメディア全体の中で検索サービスや広告の動向も注目されます。このような動きを捉えて大型シンポジウムを企画し、2008年2月ないし3月の開催を目指します。
4. 引き続きデジタル放送時代の視聴者に焦点をあてた研究調査を行い、必要に応じて、フォーラム、セミナー、研究会等を開催します。
5. 事業実施に当たっての基本方針は以下の通りとします。
  - ①会の財政を考え当委員会の事業全体としての黒字を目指す。
  - ②ほかの委員会の企画と有機的な連動を図る。



NPO 放送批評懇談会

第3回通常総会 2007

## 2007年度マイベストTV賞

### プロジェクト事業計画

1. 以下のメンバーで運営します。

プロジェクトリーダー	滝野俊一
メンバー・仮屋和則	桧山珠美
アドバイザー	藤久ミネ
事務局	久野 明

2. Web会員の登録者を増やすべく、広報活動を強化します。

また、若年層の会員増を目指し、携帯電話から登録、投票ができるようにします。

3. 第2回「マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第45回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。

また、候補作品に漏れていた深夜番組やレギュラー番組などを選考の対象に入れる試みを実施し、さらに多くの方が投票できるようにします。

第五号議案

NPO放送批評懇談会

2007年度収支予算

## 2007 年度予算案

2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日まで(単位:円)

科目	2006 年度決算	2007 年度予算	摘要
<b>I. 収入の部</b>			
1. 会費等収入			
会費収入	2,399,500	2,450,000	正会員会費
維持会費収入	40,979,000	40,900,000	維持会員会費
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	24,853,294	25,000,000	参加料,贈賞式会費
企画開催事業収入	4,319,000	3,700,000	シンポジウム参加料
40 周年記念収入	47,100		
3. その他の収入			
出版編集事業収入	3,847,442	3,850,000	GALAC販売
広告料収入	7,684,000	7,600,000	GALAC広告
4. 雑収入			
受取利息	7,193		
雑収入	1		
当期収入合計	84,136,530	83,500,000	
<b>II. 支出の部</b>			
1. 事業費			
選奨費	6,856,827	7,000,000	選奨委員会,審査会運営
式典費	9,671,606	9,800,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	2,275,884	2,000,000	シンポジウム開催費
原稿料	7,026,581	7,100,000	GALAC原稿料
編集費	4,024,044	4,100,000	GALAC編集費
雑誌印刷費	16,754,431	17,000,000	GALAC印刷費
発送費	1,398,867	1,400,000	GALAC発送費
2. 管理費			
給料手当	17,092,494	17,100,000	職員給与
人件費	2,544,690	2,600,000	契約職員,臨時職員経費
法定福利費	2,275,334	2,300,000	社会保険など
福利厚生費	174,963	200,000	職員,委員の時間外作業飲食費
旅費交通費	532,230	550,000	職員,役員交通費
通信費	1,097,013	1,100,000	郵便,宅配便,電話,ネット
資料費	1,114,476	1,150,000	新聞,雑誌,書籍
会議費	220,104	250,000	理事会,その他会議
水道光熱費	255,770	270,000	水道代,電気代
事務用品費	130,398	150,000	PC周辺機器も含む
消耗品費	577,906	600,000	コピー機使用料,日用品
備品費	365,894	380,000	テレビ,デッキ,音響機器,PC
諸印刷費	373,327	700,000	会員名簿,封筒,名刺など
広報費	680,350	750,000	ホームページ運営,日韓中フォーラム経費
支払手数料	105,426	150,000	振込手数料,更新手数料
賃借料	3,926,836	4,000,000	事務所賃借,コピー機レンタル
保険料	771,230	780,000	職員保険,退職金補填
交際費	136,202	150,000	冠婚葬祭,中元,歳暮
雑費	719,186	750,000	税理士,社会保険士
諸会費	115,644	120,000	友好団体加入による会費
租税公課	135,600	150,000	法人税,事業税
退職給付引当金繰入	786,000	815,068	1 年増加額,満額 70%の 2 分の 1
予備費	0	84,932	予備の予算
当期支出合計	82,139,313	83,500,000	





特定非営利活動法人／NPO

## 放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

[houkon@houkon.jp](mailto:houkon@houkon.jp) <http://www.houkon.jp>